

## 沖縄からのメッセージ

みなさん今晚は、沖縄から連帯のごあいさつを申し上げます。

話を聞くのが特技と言う岸田首相は、10月に上京した知事とは会わず普天間基地の辺野古移設を容認している宜野湾市長と対談しました。また、11月初めに来県した松野官房長官は、宜野湾市の自治会長との車座対談で地元の要望に耳を傾ける演出をしましたが、知事表敬では「普天間飛行場の辺野古移設が唯一の解決策。工事を進めることが一日も早い危険性除去」と一方的に政府方針を述べるだけでした。

岸田首相の「話を聞く」は「従う人の話は聞く」であり、これまでの安倍・菅政権と何ら変わりません。

政府は、2019年の県民投票で埋め立て反対の民意が7割を超えた時も、「辺野古が唯一」と民意を黙殺しました。

政府が「普天間の危険性を一日も早く除去する」と言い続けて既に25年が経ちました。なぜ「辺野古移設」に固執するのか説明すら果たしません。

沖縄からは地方自治や民意を蔑ろにするこの国の政治姿勢とそれを許してしまう民主主義の崩壊が見えます。

今年7月、県が国を訴えた裁判で「農水大臣が知事へサンゴ移植を承認せよと是正したのは適法」との最高裁判決が出ましたが、2人の判事は、大浦湾側の大半に軟弱地盤が存在している状況で、変更承認申請が許可されるのか、移植がサンゴ類に重大かつ取り返しのつかない被害を与えることから「知事が承認に時間をかけ厳正に審査し許可しなかったことに違法性はない」と県の主張を認めました

しかしその直後から、国はサンゴの保全と称して、県が移植の条件とした夏場の高水温期を避けることなく作業を始め、中断を求めた県の行政指導も無視しました。

私たちが防衛局に抗議すると、自身の諮問機関である環境監視等委員会から承認を得たと言いましたが、サンゴ移植の専門家は、委員会には専門家はいないと言い「サンゴは移植すれば助かるわけではない」「埋め立ての免罪符にはならない」と断言しました。日本サンゴ礁学会も県から意見を求められ「高水温期は、白化現象や台風によるかく乱などで生残率低下の可能性が高くこの時期の移植は避けるべきだ」と答えました。夏場のサンゴ移植とその根拠とした諮問委員会の見解は、サンゴの専門家が否定しました。政府が進めるサンゴ移植は、基地建設を進めるためのポーズであり自然破壊です。

また、国が軟弱地盤の改良のために昨年4月に知事に提出した「設計変更承認申請書」について、この1年半余り県と国の間での質問と回答のやり取りは39項目452件におよびましたが、県のアドバイザーを務める地質や地盤の専門家からなる沖縄辺野

古調査団は、国の計画は杜撰だとし、特に耐震設計についての問題を指摘しました。先ず、普天間飛行場の代替と称しながら設計基準が「空港」ではなく「港湾」に変更されている点。次に、耐震設計が最新の科学的知見を無視しており震度1以上の地震で護岸崩落の懸念がある点。さらに、埋め立て地の活断層の調査・解析を放棄している等です。

国は海を埋め立てる場合の手続きとして、公有水面埋立法に従い、県知事の承認を受ける必要があります。知事は埋め立てが環境保全や災害防止に十分配慮されていることなどを審査した上で承認をするわけですが、沖縄辺野古調査団の指摘からは、法的にも承認できないことが明らかです。

また、埋め立て工事に大量の土砂が必要となり、政府は有ろうことか沖縄戦跡国定公園内からの遺骨混じりの土砂採取までも計画していますが、戦没者を冒瀆するばかりか遺族の心情を思うとき、人道上決してあってはならないことです。ボランティアで遺骨を収集し遺族へ届けてきたガマフヤーの具志堅さんを中心に政府に撤回要請が続いています

18日デニー知事と首相の初会談がようやく実現しました。知事の胸の内は「設計変更不承認」が固まっていたましたが、市長会、町村会代表との同席で次年度以降の沖縄振興策について訴えるしかなく、さぞ無念だったでしょう。

11月25日、政府の設計変更承認申請から1年半余り、ついに知事が「設計変更不承認」を決断し政府に通知しました。専門家の解析に基づき、軟弱地盤の埋立は困難、法律に照らして環境保全や災害防止策が不十分、ジュゴンへの影響調査も不十分、無理に工事をすれば飛行場としての使用に耐えられないなどでした。

現在、政府は台湾有事への備えを煽って南西諸島全体へのミサイル配備と日米合同訓練を進めています。辺野古新基地建設は、中国に向けた日米同盟の軍事的準備であり、完成すれば沖縄が真っ先に戦禍に巻き込まれるでしょう。政府がやるべきは辺野古新基地建設ではなく、米中の衝突を防ぎ台湾有事を起こさない外交努力です。

今こそ私たちは、全国連帯で政府の暴走を止めなければなりません。

デニー知事の決断は、民意を尊重し平和といのちと人権を基本理念とする憲法に沿うものです。全国から知事判断を支持・支援する声をあげ、辺野古新基地建設を断念させていきましょう。ありがとうございました。